

## 総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

名称 阿倍野区昭和地域総合相談窓口(ブランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他( )	
活動テーマ	コロナ禍における早期発見・早期対応に向けた地域支援について	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・経済的課題を抱えたケースが重篤化してから表面化し、支援介入が遅れてしまう。 ・地域住民に対し、認知症(精神疾患含む)についての正しい理解(早期発見・早期対応)について、更なる周知が必要。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を自粛する高齢者が多く、身体機能の低下や認知症の進行等のリスクが高まっている。	
対象	地域住民、地域の支援関係者、各支援機関	
地域特性	南北に長い地域で、北部は新しいマンションが多く、中部は古くからの住宅、南部は単身者向けのマンションや文化住宅が多い。地域によって経済格差が多い。南北には地下鉄の駅が2つあり、JRの駅が地域の南東端に位置しているが、駅まで徒歩で移動できない高齢者が多く、公共交通機関の利便性が確保されていない。	
活動目標	①支援関係機関との連携の強化、顔の見える関係作りの構築 ②認知症(精神疾患含む)についての正しい理解と、誰もが安心して暮らせるまちづくりに向けた取り組み ③地域向けに生活や健康等の幅広い情報の発信、総合相談窓口(ブランチ)(以下「ブランチ」という)の周知の強化	
活動内容 (具体的取組み)	・小地域ケア会議(チーム長池)を定期的に行い、地域関係者と各支援機関で、個別ケースや地域課題等の情報共有と対応に向けた検討を行ない、連携の強化を図った。 ・地域住民に対し、長池地域福祉講演会(認知症講演会)を開催し、幅広い世代の方に認知症を支える側、支えられる側になっても安心して暮らせる街づくりを目指し、認知症の正しい理解を深めていただき、また各相談窓口について学んでいただいた。 ・外出を自粛する高齢者に対し、地域福祉コーディネーターと個別訪問を通じて安否確認やフレイル・新型コロナウイルス感染症予防等の情報提供を行ない、ブランチの周知にも繋げた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域関係者や各支援機関との強化を行ってきたが、ブランチが関わった時点で経済的課題が重篤化しているケースがまだまだ見られ、他機関との連携が不足している。 ・コロナ禍にも関わらず、長池地域福祉講演会には多くの地域住民が参加され、認知症に対する正しい理解や区内の社会資源(相談窓口)について学んでいただいた。 ・個別訪問により、必要なタイミングで介護サービスに繋がったケースもあり、新規相談件数も昨年度より増えており、活動による一定の効果はあったと思われる。	
今後の課題	・未だに表面化されていない様々な課題を持つケースが多く存在し、重篤化を防ぐ為にも、より一層の支援関係機関との連携の強化が必要。 ・認知症については、引き続き幅広い世代に向けて、認知症の理解を深め、支える側支えられる側になっても安心して暮らせる街作りに向けた継続的な取り組みが必要。 ・コロナ禍における早期発見・早期対応に向けて、今後も個別訪問や回覧板等を活用し、状況確認と幅広い情報の発信、ブランチの周知が必要。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月30日(金)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	・タイプ別サービスの説明会の実施や、タイムリーな情報の発信等、地域住民と協力し、取り組みを実施できている。 ・難しい事例に対しても、きめ細やかに区包括支援センターやブランチと連携し、対応することができている。 ・リモートで認知症講演会を実施するなど今の時代に即した柔軟な活動にも率先して対応している。	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		